

個人投資家向け 会社説明会

長瀬産業株式会社

証券コード:8012

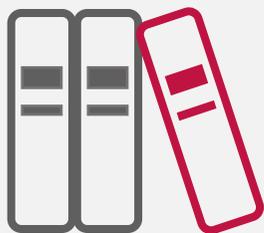
これからも、
じぶんらしく。
じぶんらしくなく。



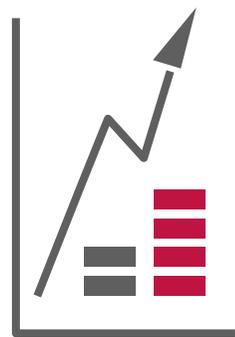
1. 長瀬産業とは？
2. 成長戦略「中期経営計画 ACE 2.0」(2021-25年度)
3. 株主還元
4. まとめ

1. 長瀬産業とは？
2. 成長戦略「中期経営計画 ACE 2.0」(2021-25年度)
3. 株主還元
4. まとめ

数字で見るNAGASEグループ



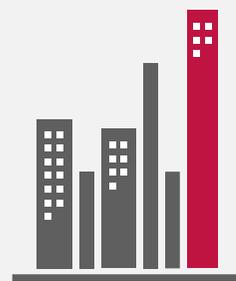
創業
1832
年



連結売上高
9,001
億円

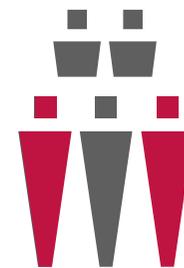
売上総利益 海外比率
54
%

自己資本比率
50
%



拠点数
25 106
力国・地域 社

取引企業数
約 **18,000** 社



連結従業員数
7,528
名

新社長の就任(2023年4月～)



上島 宏之 (うえしま ひろゆき)

生年月日： 1965 年 11 月 5 日 (58 歳)

学歴： 京都大学 工学部

略歴：

1988年 4月 長瀬産業株式会社 入社

2015年 4月 経営企画部 本部長

2017年 4月 執行役員 経営企画部 本部長

2017年10月 執行役員 自動車材料事業部 事業部長

2018年 4月 執行役員 自動車材料事業部 事業部長 兼 名古屋支店長

2021年 4月 執行役員 モビリティソリューションズ事業部 事業部長

2022年 4月 執行役員 開発担当 兼 欧州担当 兼 欧州CEO

2022年 6月 取締役兼執行役員 開発担当 兼 欧州担当 兼 欧州CEO

2023年 4月～ 代表取締役社長

**“かつて企業は、一度トランスフォームすれば
10年繁栄できると言われていたが、
もはやその時代は終わった。
存続のために、われわれは常に変革を
し続けなければいけない。”**

事業創造の歴史1/3



1832年～ 染料の取り扱いから化学領域へ

1832年 長瀬伝兵衛が京都・西陣で紅花などを扱う「鱗形屋」を創業



初代:長瀬伝兵衛

1900年～ 海外有力メーカーとの取引開始

1900年 バーゼル化学工業社(チバ社)との取引を開始

以降イーストマン・コダック社、デュポン社、ゼネラル・エレクトリック社等の
大手メーカーとのパートナーシップを拡大



1893年当時のチバ社全景

事業創造の歴史2/3



1970年～ 国内外に支店、法人を設立、アジアを中心に基盤強化

1971年 香港、アメリカに現地法人を設立

グローバル拠点数は25カ国・地域に106社まで拡大(2024年3月末時点)



ニューヨーク五番街
(現地法人設立当時)

1970年～ 製造機能、研究開発機能を強化

1970年 チバ社との合併会社を設立しエポキシ樹脂を製造
(現・ナガセケムテックス)

1990年 研究開発拠点ナガセR&Dセンターを設立
(現・ナガセバイオイノベーションセンター)

製造拠点数は15カ国・地域に43社まで拡大(2024年3月末時点)



ナガセケムテックス



ナガセバイオ
イノベーションセンター

事業創造の歴史3/3



2010年～ 食品素材ビジネスを本格化

2012年 林原をM&A
(現・ナガセヴィータ)

2019年 PrinovaグループをM&A



ナガセヴィータ



Prinovaグループ

2020年～ サステナビリティを推進

2020年 サステナビリティ推進委員会を設置

2021年 ゼロボード社と協業し、CO2排出量可視化クラウドサービスを展開

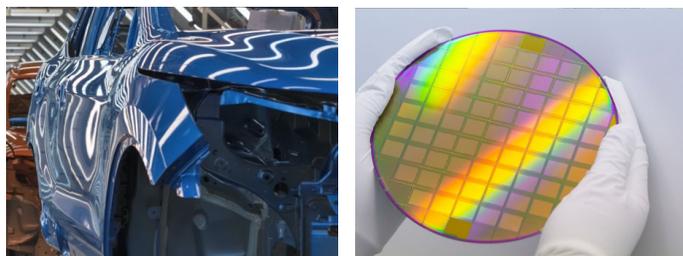
2022年 カーボンニュートラル宣言

2050年までにScope 1・2ベースでのGHG排出量の実質ゼロを目指す



化学品・食品素材等を扱う5つのセグメントにおいて、
様々な業界の川上から川下まで幅広く事業を展開

機能素材



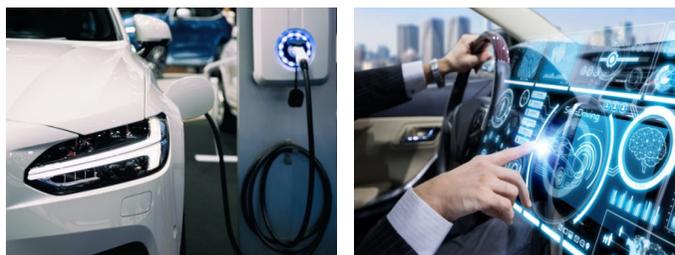
加工材料



電子・エネルギー



モビリティ



生活関連



事業領域

機能素材

加工材料

電子・エネルギー

モビリティ

生活関連



事業領域

機能素材

加工材料

電子・エネルギー

モビリティ

生活関連

建物に使われる
塗料の原料

建物に使われる
断熱材の原料

パソコンの
電子部品の材料

スマホに搭載されている
半導体関連材料

パソコンの液晶の材料

プリンターの外装の樹脂

プリンターインクの原料

衣服の繊維の製造工程で
使われる材料

電子ペーパーの基板材料

事業領域

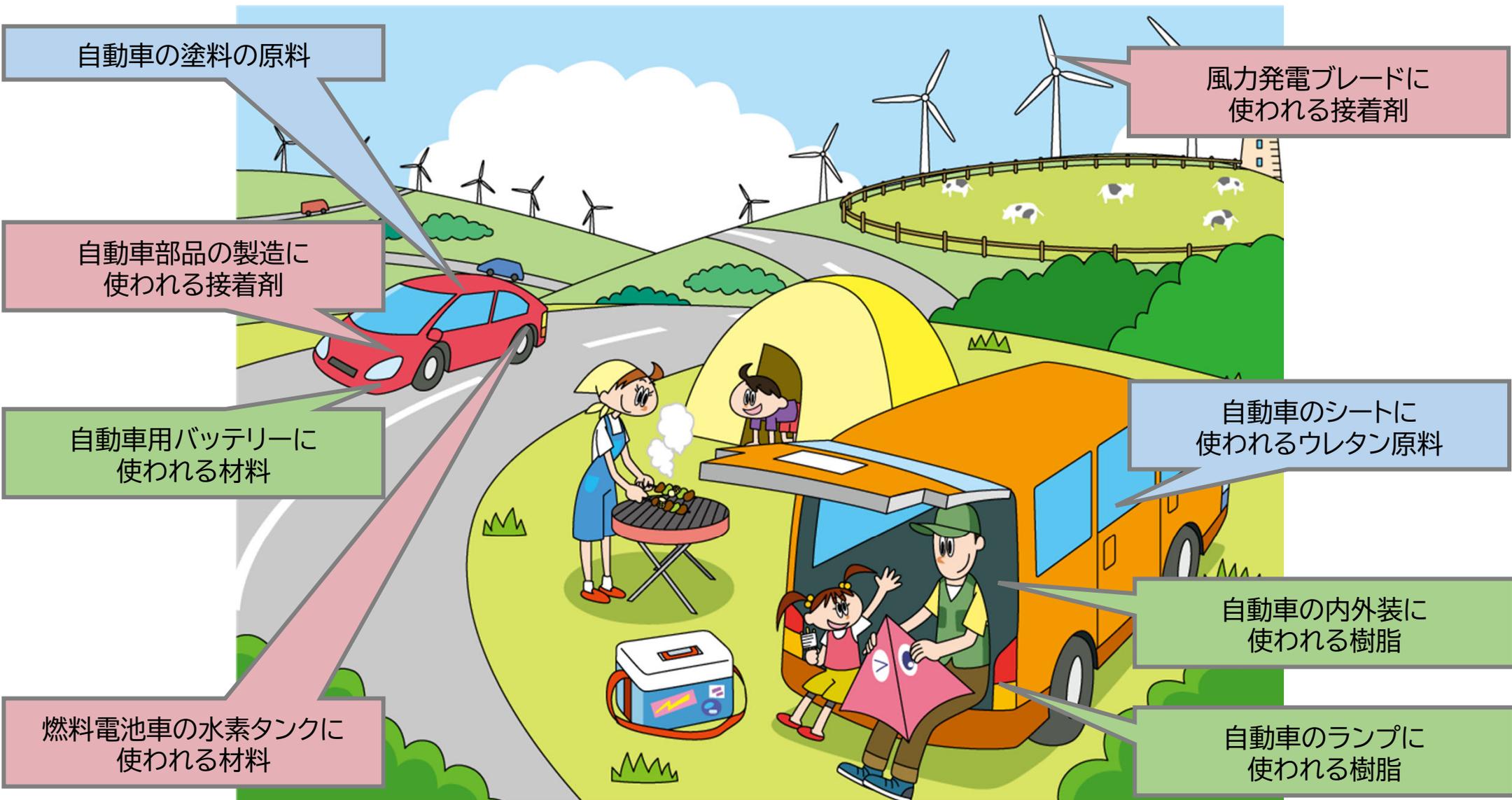
機能素材

加工材料

電子・エネルギー

モビリティ

生活関連

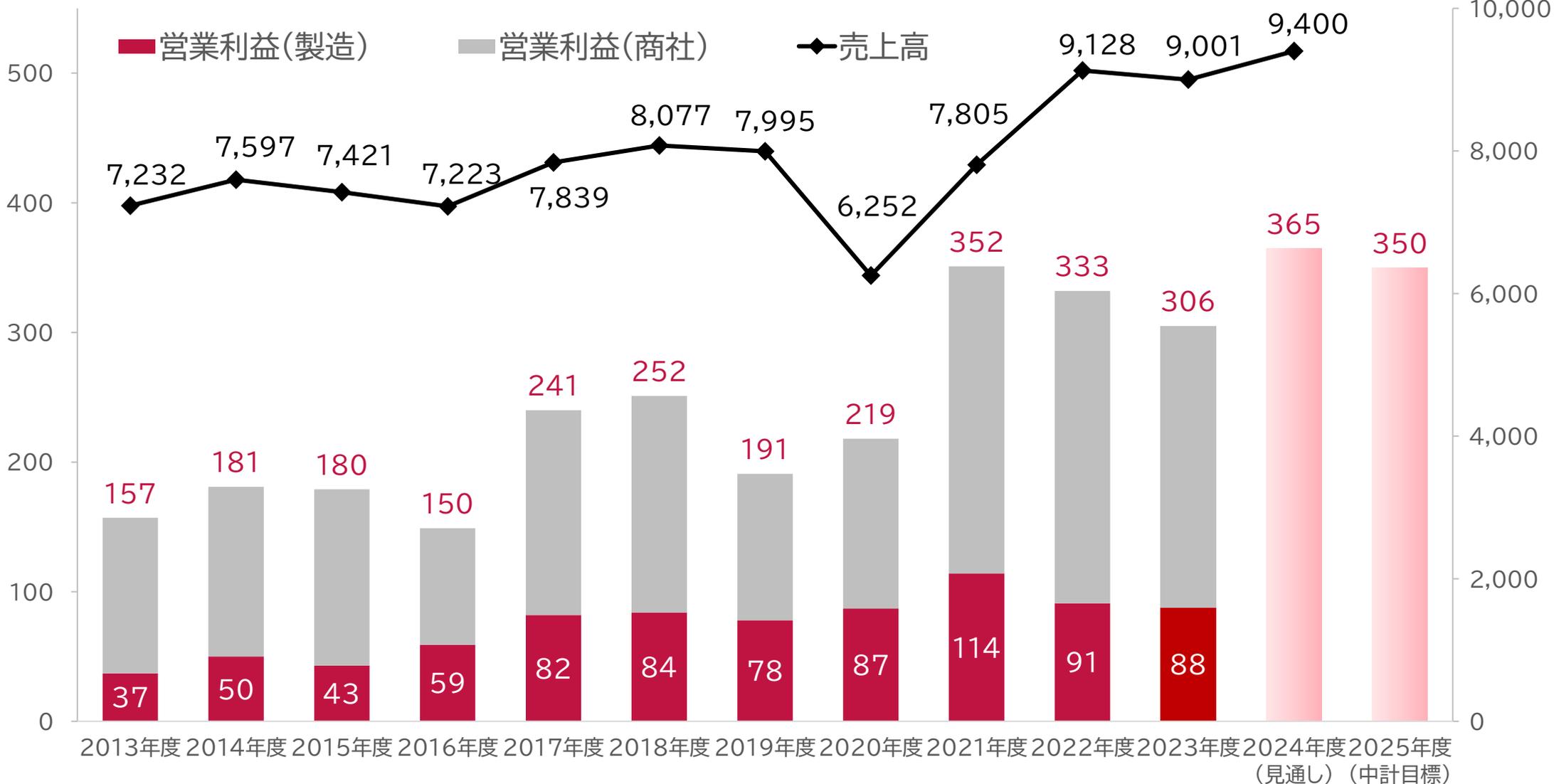


業績の推移と見通し

2024年度は過去最高益を更新する見通し
製造業営業利益は10年で2倍超

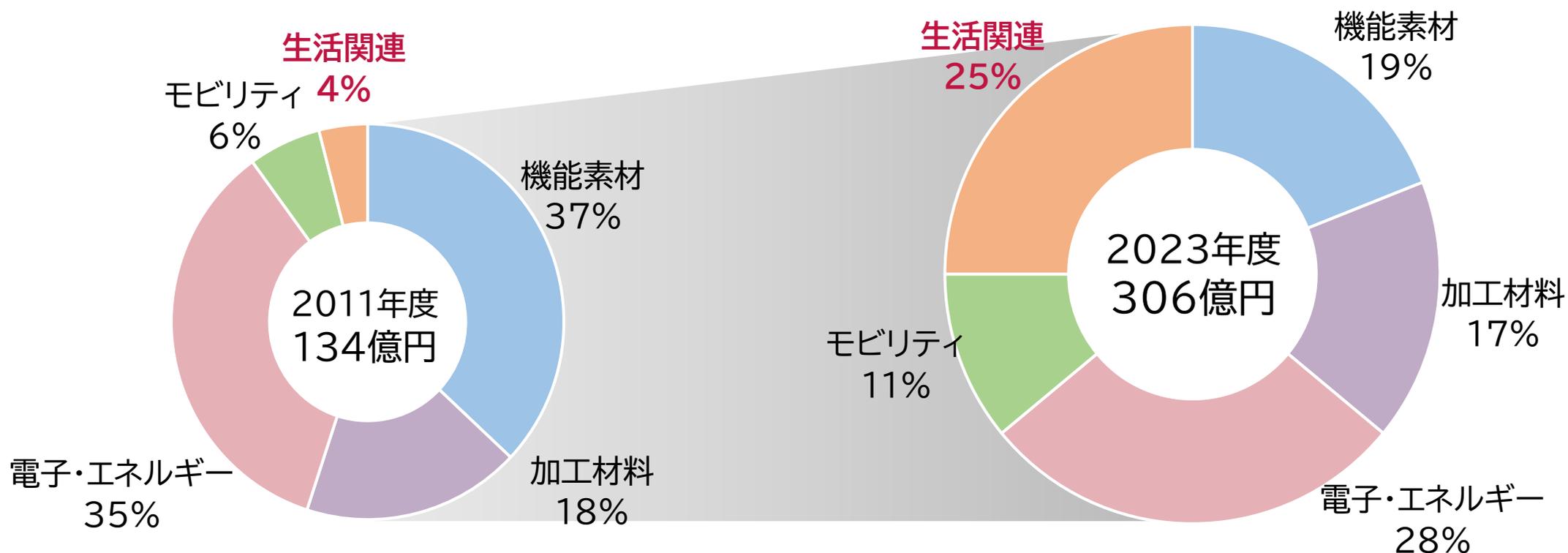
営業利益:億円

売上高:億円



セグメント別営業利益の変化

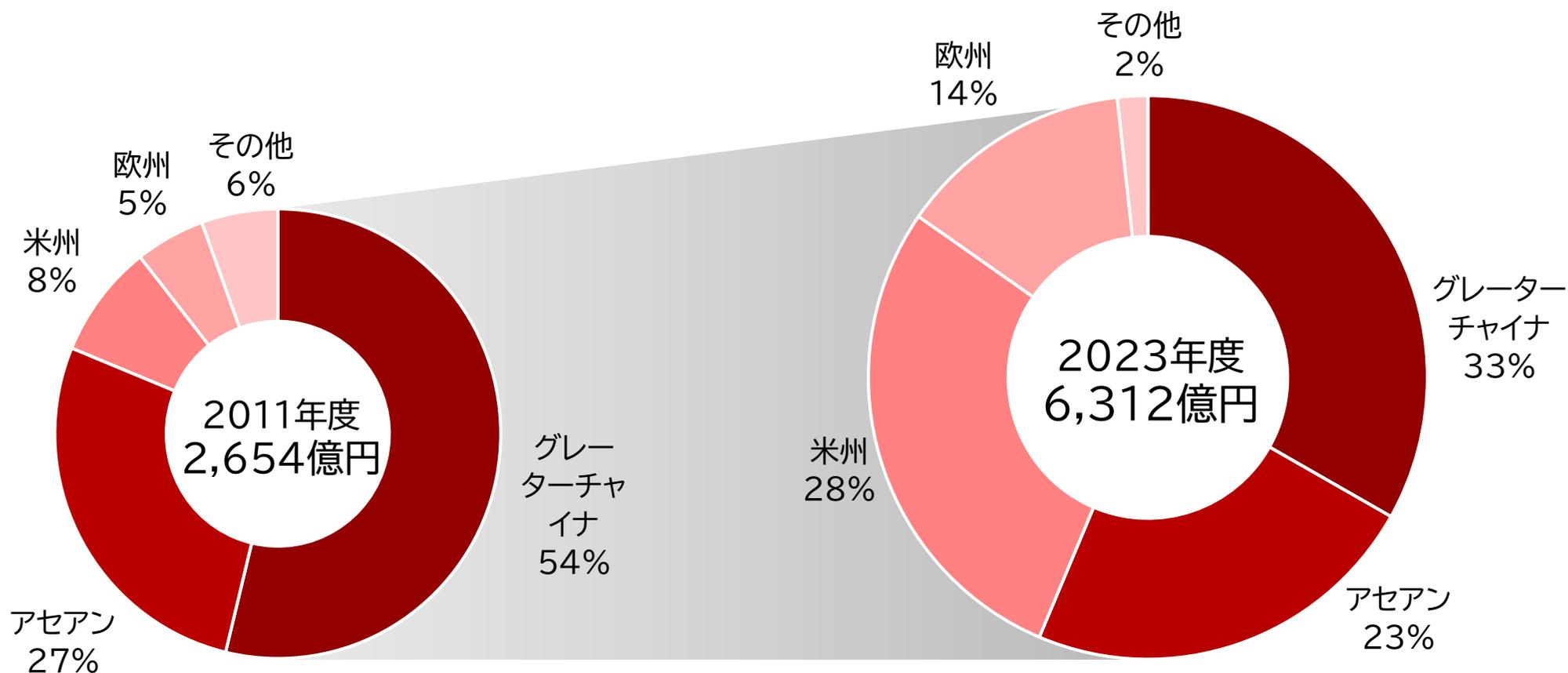
生活関連・モビリティセグメントのビジネス拡充により、収益基盤を強化



※営業利益の構成比の計算において、その他・全社セグメントは含めておりません。

地域別海外売上高の変化

基盤であるアジアに加え、欧米での事業を大幅に拡大



欧米: 352億円

アジア: 2,154億円

欧米: 2,643億円

アジア: 3,556億円

※2011年度は仕向け地別での集計、2023年度は対象会社の所在地に基づく集計
※2023年度の売上高は収益認識に関する会計基準を適用した数値

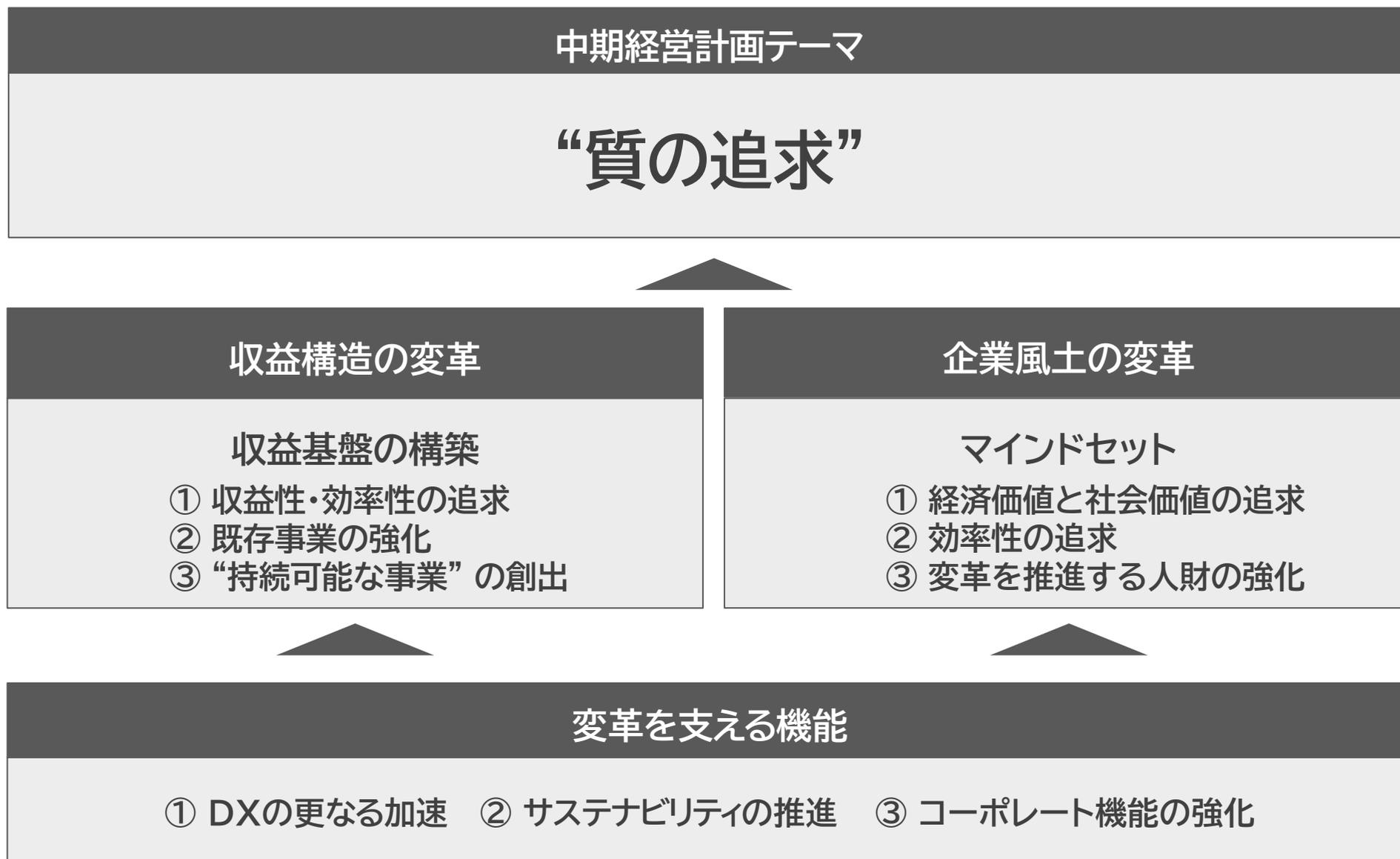
1. 長瀬産業とは？
2. **成長戦略「中期経営計画 ACE 2.0」(2021-25年度)**
3. 株主還元
4. まとめ

誠実正道

【経営理念】

社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、
社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、
社員の福祉の向上と社会への貢献に努める

ACE 2.0 の基本方針



ACE 2.0 の定量目標

ROE8.0%以上、営業利益350億円を収益力のベースラインとして
成長に挑戦できる体制構築を目指す

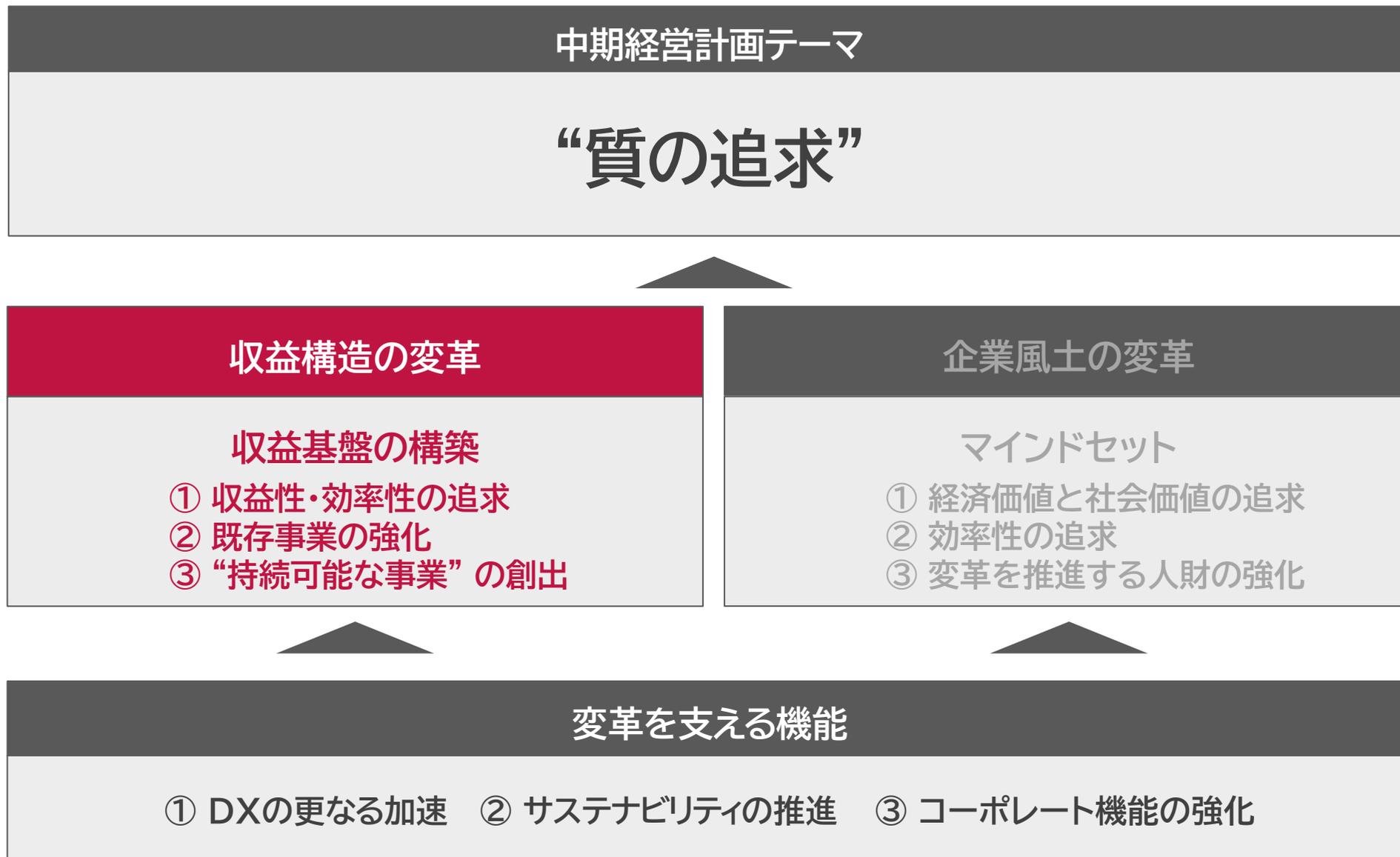


ROE	5.9%	7.7%	6.6%	5.9%	7.2%	8.0%以上
-----	------	------	------	------	------	--------

営業利益	219億円	352億円	333億円	306億円	365億円	350億円
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

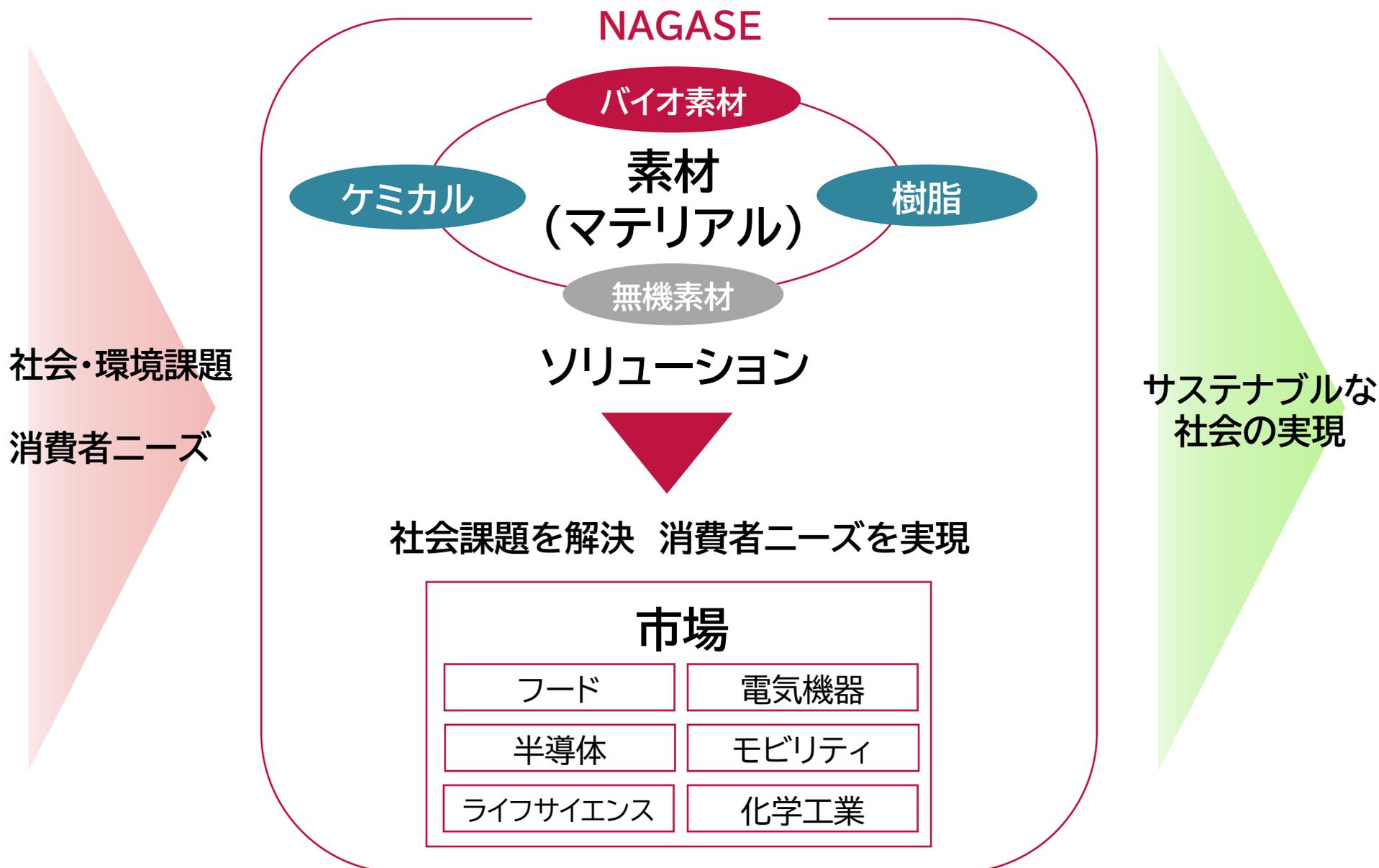
※2025年度前提:1US\$=108.7円、1RMB=15.6円

ACE 2.0 の基本方針



▶ NAGASEグループは

ものづくりの課題を素材(マテリアル)で解決する会社



ものづくりの課題を素材(マテリアル)で解決する会社

商社機能

パートナーとの課題解決

- ・情報の目利き力
- ・課題の探索とマッチング
- ・グローバルネットワーク

製造機能

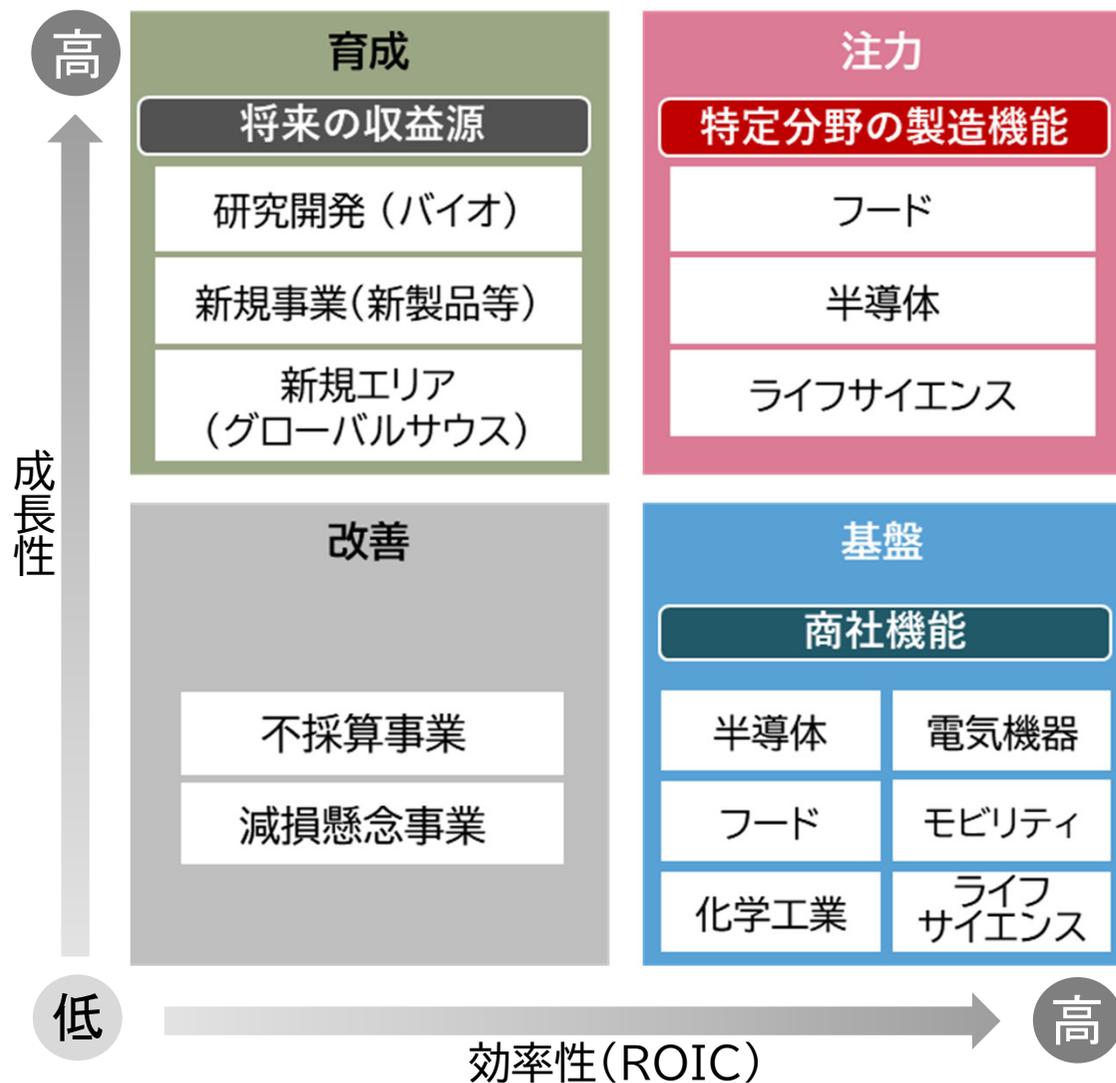
自社製品による課題解決

- ・独自の素材や技術
- ・製造、品質管理
- ・素材のカスタマイズ

研究開発機能

新素材の開発による課題解決

成長性と効率性の2軸4象限で分類
 成長性・効率性が高い領域へリソースをシフト
 注力・育成領域に対する2023年度以降の潜在的な投資額は約800億円

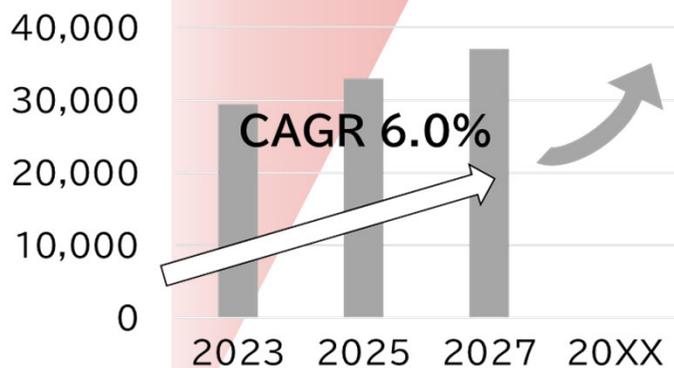


- 基盤**
 注力領域と育成領域の強化に繋がる
 キャッシュと付加価値の高い情報を獲得
- 育成**
 将来の収益源となる分野で、
 新たなチャレンジを進める
- 注力**
 特徴ある自社製品・技術を活かし、
 全体の収益性を上昇させる
- 改善**
 マイナスのキャッシュアウト削減

【社会課題】

- ・世界的な健康志向の高まり
- ・フードロスに対する課題意識

スポーツニュートリション
グローバル市場(\$M)



NAGASE×Prinova ×ナガセヴィータ

【強み】

- ・成長性の高いスポーツニュートリション市場との接点
- ・自社製造の機能性食品素材を含む多様な素材ラインナップ
(自社素材:トレハ[®]、ファイバリクサ[®]、林原ヘスペリジン[®]S等)
- ・グローバルをカバーする販売網
- ・M&Aの経験とノウハウ
- ・ワンストップで調達から製造まで提供できるビジネスモデル

【ソリューション】

健康寿命の延伸やフードロス低減等に
貢献する素材を提供

サステナブルな
社会の実現

引用元:© Statista 2023のデータをもとに当社作成

具体的な取り組み

M&Aを含む投資を実行し事業を拡大



会社概要

北米、欧州を中心に食品素材販売から、素材の加工、最終製品の受託製造までを一貫して手がける。食品素材の調達、取扱品は2,000品目を超える。

創業:1978年

所在地:米国イリノイ州

売上高:1,934億円(2023年度)

従業員数:1,339名(2023年12月末)

M&Aによる、甘味料市場獲得とブラジルへの事業領域拡大



新工場設立による受託製造機能強化



ユタ新工場

M&Aによる加工機能拡充



Lakeshore Technologies

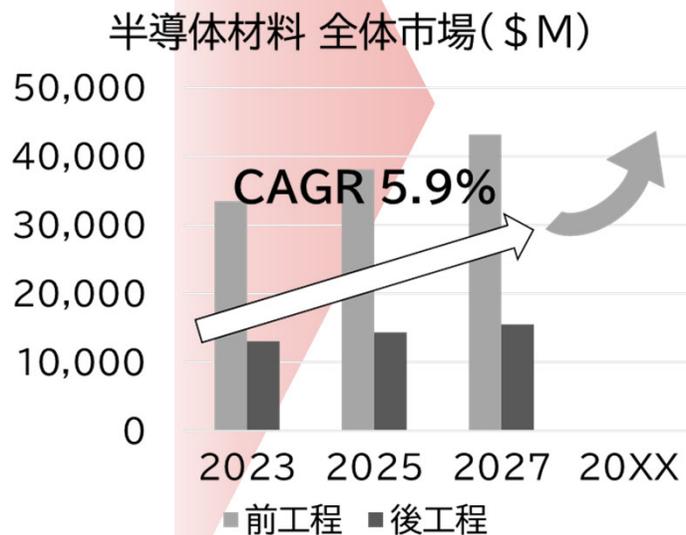
カプセル化・スティック化設備導入によるパッケージの多様化



※製品イメージ

【社会課題】

- ・最先端半導体の需要増加
- ・経済安全保障を背景とした生産拠点の多極化



引用元:富士経済のデータをもとに当社作成

NAGASE×ナガセケムテックス

【強み】

- ・最先端半導体市場へのスペックインの実績
⇒※FOWLP構造デバイス半導体用液状封止材シェアNo.1の実績
- ・多様な要素技術による企画設計/製造力
※FOWLP : fan out wafer level package

【ソリューション】

最先端半導体の製造に欠かせない
高付加価値な素材を提供

サステナブルな
社会の実現

具体的な取り組み

封止材事業/剥離液事業/現像液回収・再生事業に積極投資

 **Nagase Chemtex**

ナガセケムテックス株式会社

会社概要

エレクトロニクス領域において、多様な要素技術による企画設計/製造力を強みとして、世界初開発の素材や業界シェアNo.1の製品を創出。

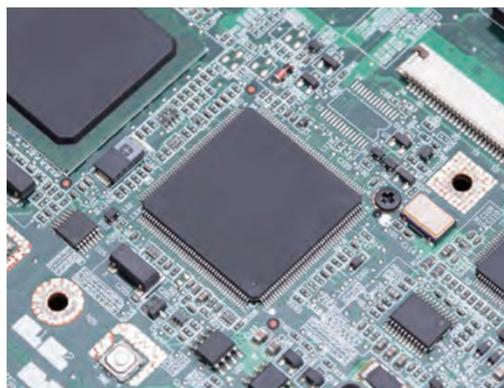
設立:1970年

所在地:兵庫県たつの市

売上高:251億円(2023年度)

従業員数:526名(2024年3月末)

生成AI向け最先端半導体用封止材の需要拡大を見込み生産能力を倍増



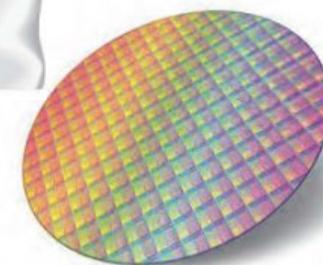
半導体用剥離剤の需要拡大に伴い製造工場の新設を検討中



Sachem社との半導体用現像液回収・再生事業の立上げ(国内初)



長瀬産業がRapidus社の材料輸送に関する取纏め業者に指定

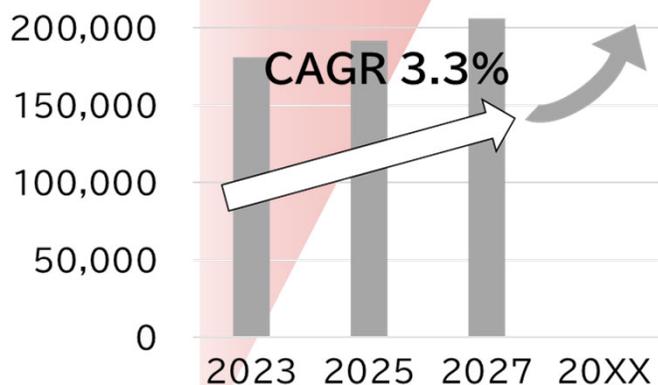


注力 ライフサイエンス分野の製造機能

【社会課題】

- ・高齢化社会・健康志向の高まり
- ・サステナビリティへの意識の高まり

Skin Care Revenues (\$M)



引用元: Statista Market Insights
のデータをもとに当社作成

NAGASE×ナガセヴィータ

【強み】

- ・医薬品の安定性を支える糖の安定化技術
- ・処方提案と分析・評価機能
- ・各国レギュラトリーへの対応機能
- ・精密有機合成技術
- ・グローバルでのサステナビリティに関するプレゼンス

【ソリューション】

安心安全なバイオ由来素材の提供

サステナブルな
社会の実現

具体的な取り組み

医薬品、パーソナルケア用途等幅広い分野で高付加価値素材を提供

Nagase Viita

ナガセヴィータ株式会社

会社概要

食品素材・パーソナルケア素材・
医薬品素材・機能性色素などの
素材を開発・製造。グループのバ
イオ関連事業の中核として、サス
テナブルな素材と価値の提供を
牽引している。



設立:1932年

所在地:岡山県岡山市

売上高:344億円(2023年度)

従業員数:782名(2024年3月末)

医薬品素材

トレハロースSG

- ・世界で初めて大量生産に成功したトレハロースを精製した注射剤向け医薬品添加剤
- ・需要が高まる抗体医薬品の品質安定性向上に貢献



プルラン

- ・バイオ由来の中でも高品質なプルラン
- ・カプセル市場に展開



パーソナルケア素材

AA2G[®]

- ・安定型ビタミンC、自然由来の香粧品素材
- ・美と健康意識の高まりにより海外への展開を加速



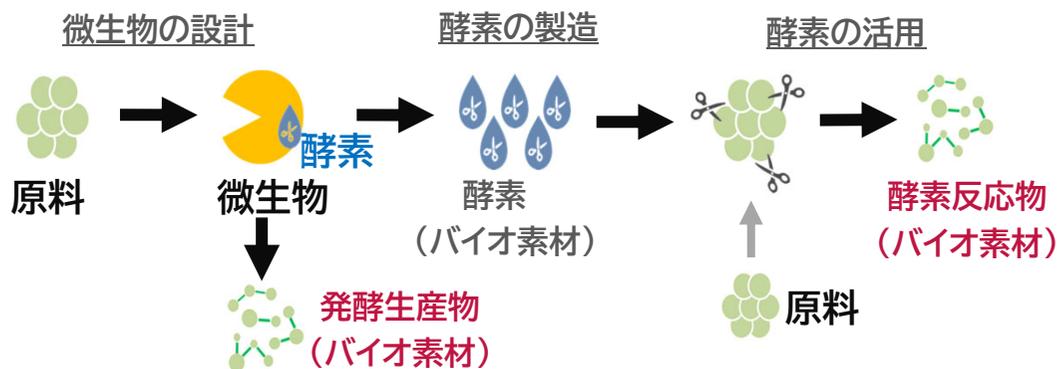
NAGASE(ナガセバイオイノベーションセンター)
×ナガセヴィータ

【社会課題】

- ・気候変動
- ・資源循環
- ・健康寿命
(認知機能、
睡眠の質等)

【強み】

バイオプロセスの要素技術から量産化までの
機能とノウハウを保有



サステナブルな
社会の実現

【ソリューション】

バイオプロセスで産み出した
高付加価値な素材の提供

化粧品

機能性食品

医療

化学工業

具体的な取り組み

発酵法を用いて、抗酸化効果を持つエルゴチオネインの量産化を目指す

エルゴチオネイン

- ✓アミノ酸の一種でキノコ等に含まれる天然成分
- ✓強い抗酸化作用を有し、高い安全性が担保されている

期待される効果は？

- ✓認知への効果
- ✓肌しわ・シミの改善
- ✓快適な睡眠



バイオ由来の高吸水性ポリマーの開発に成功、事業化を目指す

生分解性SAP

- ✓高い吸塩水性能を実現
石油由来品と同等レベル、他社の生分解性SAPの6倍超
- ✓土壌や海水での分解が可能

SAP(高吸水性ポリマー)とは？

高い吸水性能を有する高分子材料で、紙おむつや、農業、緑化分野や化粧品など幅広い分野で使用されている石油由来品が主流で、環境負荷が大きいことが課題

ナガセをさがせ。①

おむつ問題は、
水に流そう。

年間の約193億枚[※]。乳幼児用と大人用あわせて膨大な量が生産されている紙おむつは、使用後ほとんどが焼却処分されています。その際にCO₂を大量に排出することから、環境への影響が懸念されてきました。そこでNAGASEは、でんぷんを原料に使った「生分解性SAP(高吸水性ポリマー)」を開発。従来と同等以上の吸水性能を実現しながら、土壌や海水での分解を可能[※]。

実用化すれば焼却処理の量を大幅に減らせるため、環境負荷も削減できます。社会の課題をマテリアルで解決し、世界のパートナーと進める未来を創造する。私たちはNAGASEです。

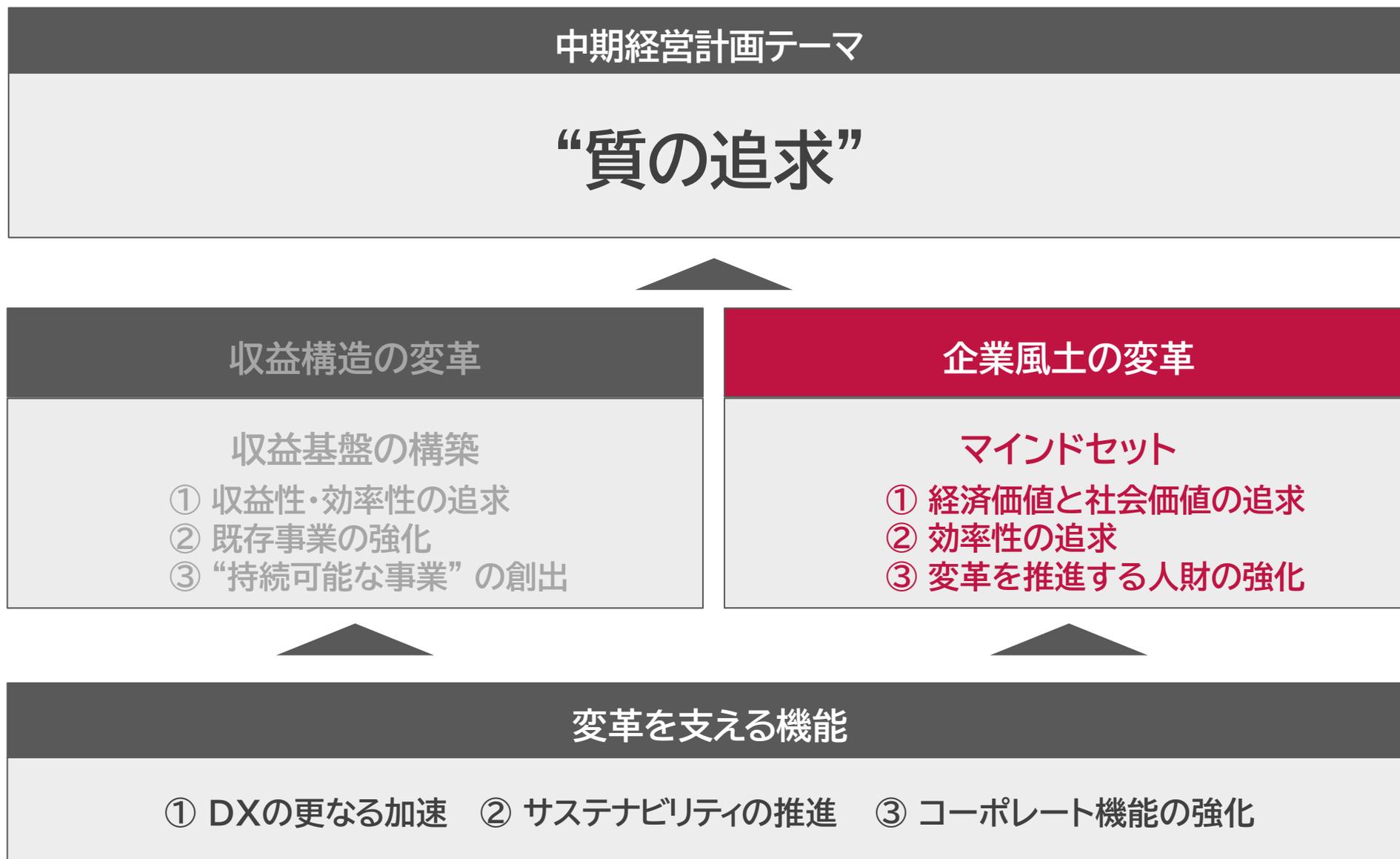
高吸収 | バイオ由来 | 生分解性

NAGASE
Delivering next.

① NAGASEの技術をもとに開発
長瀬産業株式会社
※ 2023年10月31日時点の推定値

※2023年10月31日「日本経済新聞」へ出稿

ACE 2.0 の基本方針



企業風土の変革 - 資本効率性向上への取り組み -

2025年度までにROE8.0%以上、ROIC>WACCを実現

ROE

2020年度実績 5.4% → 2025年度目標 **8.0%以上**

ROIC※1

2020年度実績 4.2% → 2025年度目標 **5.0~5.5%**

WACC※2

2020年度実績 5.4% → 2025年度目標 **5.0%未満**

事業戦略

- ・積極的な事業投資
- ・各事業の投下資本とリターンのモニタリングを徹底
- ・成長性・効率性が高い事業へリソースをシフト

資本・財務戦略

- ・Net DEレシオ0.5倍未満を上限とした有利子負債活用
- ・総還元性向100%(2024年度、2025年度の限定措置)
- ・継続増配
- ・機動的な自己株式取得

※1:親会社に帰属する当期純利益/投下資本期中平均*100

※2:WACCを構成する株主資本コストは、CAPMをベースとした当社独自の計算方法によるもの

企業風土の変革 - 従業員エンゲージメント向上への取り組み -

従業員の活躍が持続的成長に不可欠であると考え、
従業員エンゲージメント向上プロジェクトを始動

従業員エンゲージメント

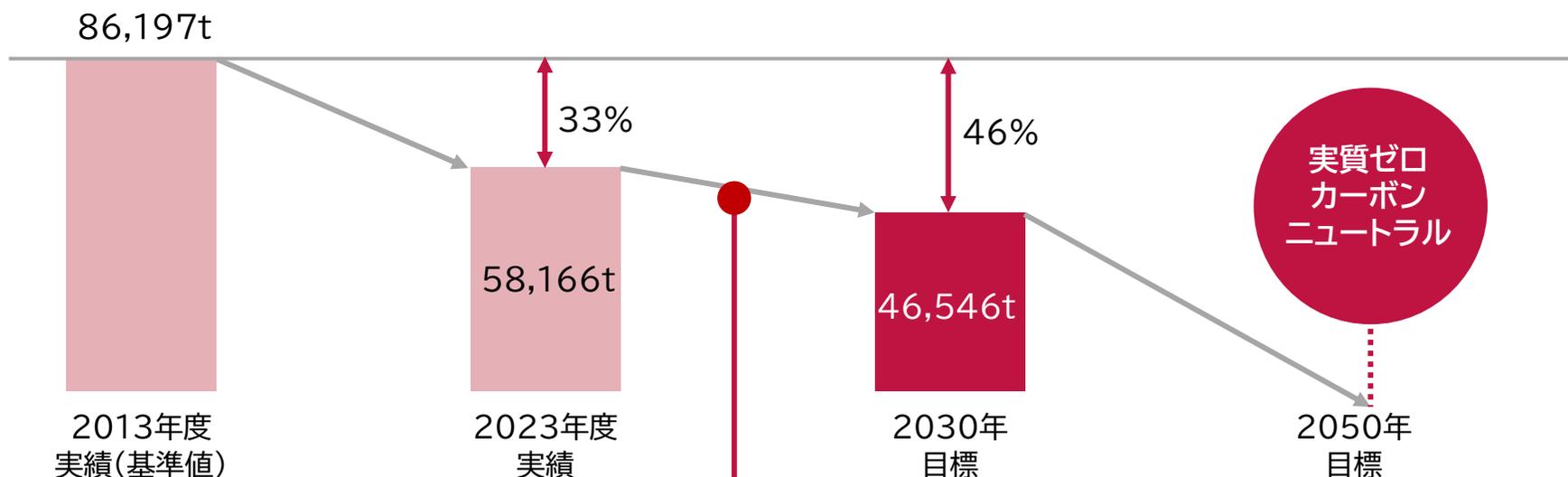
「会社(組織)と従業員が相互に理解し合い、お互いを高め合う状態」

ACE 2.0 非財務目標(～2025年度)

- | | |
|----------|--|
| グループ会社 | ● 定期的にエンゲージメントサーベイを実施している割合:100%
(2023年度:86%) |
| 長瀬産業(単体) | ● エンゲージメントサーベイトータルスコア:60以上
(2023年度:56.0) |

企業風土の変革 - カーボンニュートラル達成への取り組み -

気候変動への対応を重要な課題と認識し、カーボンニュートラルプロジェクトを始動



ACE 2.0 非財務目標(~2025年度)

連結

- Scope1,2削減率:37%以上(2013年比)
- 再生可能エネルギー発電・購入による削減量:35,000t以上(累計)

長瀬産業(単体)

- Scope2:ゼロエミッション

Scope1:直接的な温室効果ガス排出量
Scope2:間接的な温室効果ガス排出量

1. 長瀬産業とは？
2. 成長戦略「中期経営計画 ACE 2.0」(2021-25年度)
- 3. 株主還元**
4. まとめ

企業風土の変革 - 資本効率性向上への取り組み -

資本の増加を抑制し、ROE8.0%以上の達成を確実なものとするため、
2024年度、2025年度の限定措置として総還元性向100%とすることを決定

従来方針

新方針(～2025年度)

総還元
性向

—

100%

配当

原則継続増配

原則継続増配

※変更なし

自己株式
取得

政策保有株式の売却額を
上限とし、機動的に実施

機動的に実施

株主還元方針

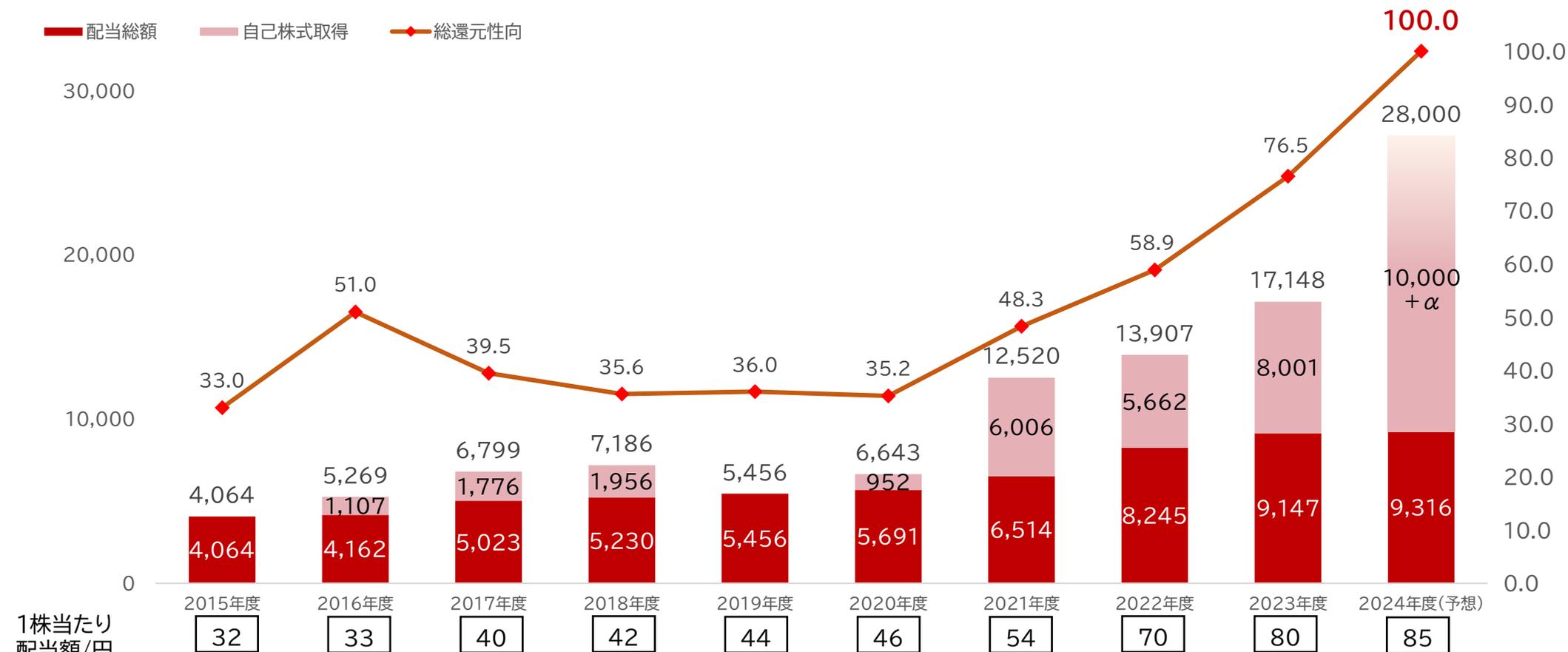
15期連続増配見込み、自己株式の取得も機動的に実施

**ACE 2.0
株主還元方針
(~2025年度)**

総還元性向	100%
配当	継続増配
自己株式の取得	機動的に実施

(単位:百万円)

(単位:%)



※ 2023年度の期末配当金は、2024年6月開催予定の第109回定時株主総会に附議予定です。

1. 長瀬産業とは？
2. 成長戦略「中期経営計画 ACE 2.0」(2021-25年度)
3. 株主還元
4. **まとめ**

ものづくりの課題を素材(マテリアル)で解決する会社

事業内容

フード・半導体・ライフサイエンス・電子デバイス・モビリティ・化学工業市場におけるものづくりの課題を商社機能、製造機能、研究開発機能を活かして解決

成長性

フード・半導体・ライフサイエンス分野の製造機能、バイオ分野の研究開発機能にリソースを集中注力・育成領域に対する2023年度以降の潜在的な投資額は約800億円

安定性

自己資本比率50%(2024年3月末時点)
特定の市場・地域に依存せず、バランス良く収益を稼ぐ

株主還元

2024年度、2025年度の2年限定で総還元性向100%を掲げる
2024年度は15期連続増配を予定

NAGASE | **Delivering next.**

■お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

■当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

当プレゼンテーション資料には、2024年9月27日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。